

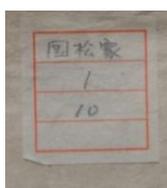
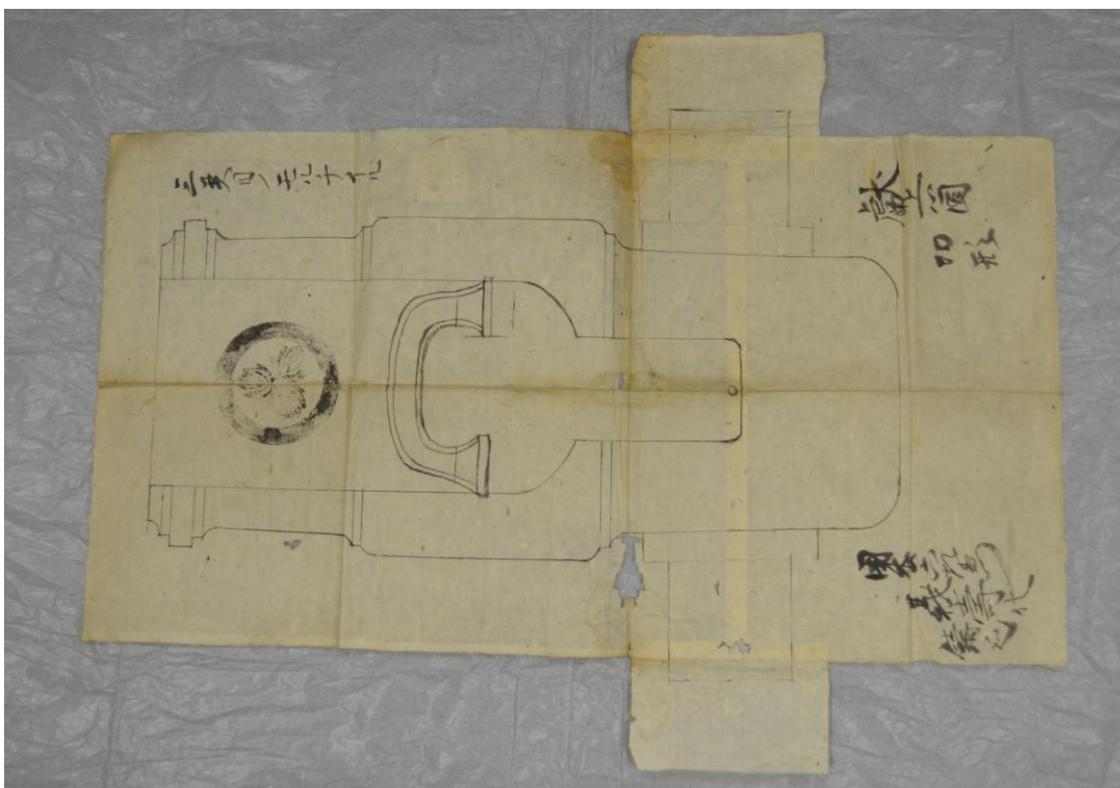
## 舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）だより

令和3年6月

4月25日から6月20日（日）まで新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されています。閉館中は古文書の整理に明け暮れています。

ここで、ふるさと発見館のバックヤードを少しお伝えします。舞鶴市を知る資料は、出土品・民具・古文書など様々なものがあります。この内、ふるさと発見館には古文書や写真など紙資料の収蔵庫を併設しています。その数は約5万点以上になります。それらの資料は和紙のラベルが貼られ、探したらすぐわかるようになっています。

例えば、市の指定文化財になっている下の国松家文書の大砲図面には、



裏に左のような和紙ラベルを特別な糊で貼って、下のような目録を作ります。すると、目録をみただけで、年代はわからないが、田辺藩主牧野家に國松義壽が献上した大砲の実物大図面なのだと、推測がつくようにしてあります。このように古文書たちは出番がきたらいつでも出られるように準備しているのです。

番号	枝番	表題	差出人	大きさ (cm)
1	10	献上筒切形(牧野家紋入り)	國松六左衛門義壽	56×30.5

☆城下町コーナー

城下町コーナーでは4月に「城園春色」と題して、『田辺城御殿図』や荘門霞亭の書『田辺八景詩』などを展示していました。荘門霞亭（1796～1860）は田辺藩士で当時書聖とまでいわれた貫名松翁（ぬきなしょうおう）と会見した翌日に死亡したため、松翁が霞亭の筆に嫉妬して毒殺したという風説がたったほどの書家でした。そこで、6月は『田辺八景詩』の中の「市橋夏涼」を展示します。「市街の板橋に商売する人々がつどい、暮鐘の一響きが市場の喧噪を絶つ。雲晴れて淡い月が波の上に浮かび、また清涼を求めて海浜に立つ」という漢詩です。市街の板橋とは高野川にかかる大橋のことでしょうか。城下町の賑わいが伝わってくるようです。

新型コロナウイルス感染予防対策を実施しています。皆様のご協力をお願いいたします。

お問い合わせは

舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）

TEL：0773-75-8836

（受付時間 9：00～16：30）

FAX：0773-77-1314

住所：舞鶴市字南田辺1番地

（ゆうさい会館（西総合会館）1F北側）

展示室入場料：大人 100 円、

市外学生 50 円

サロンスペース：無料

休館日：1（火）～11（金）・14（月）・

21（月）・28（月）

